

大山街道八王子道・千人同心日光往還道ウォーク

第4回 高坂駅から坂戸駅

計画 歩行距離 約8.1km。

集合 高坂駅改札口 10時30分

第4回 高坂駅から坂戸駅

実施日 2020 (R02) 年10月21日 (水) 天候 晴。気温20℃位。爽やか。

参加者 折本文夫、前北 勝司、伊藤 泰弘、中田 信義、杉田 勝行、中島 征雄 計6名

コース 高坂駅～六地藏・馬頭観音～国道407号線・道標～越辺川・高坂橋～舊日光街道碑・雨降の常夜燈・馬頭観世音供養塔・上吉田の座標～北坂戸駅～八坂神社・薬師堂・馬頭観音～道標石柱～坂戸神社～坂戸駅

写真は2019 (R01) 年5月8日と今回2020 (R02) 10月21日のものを使用。



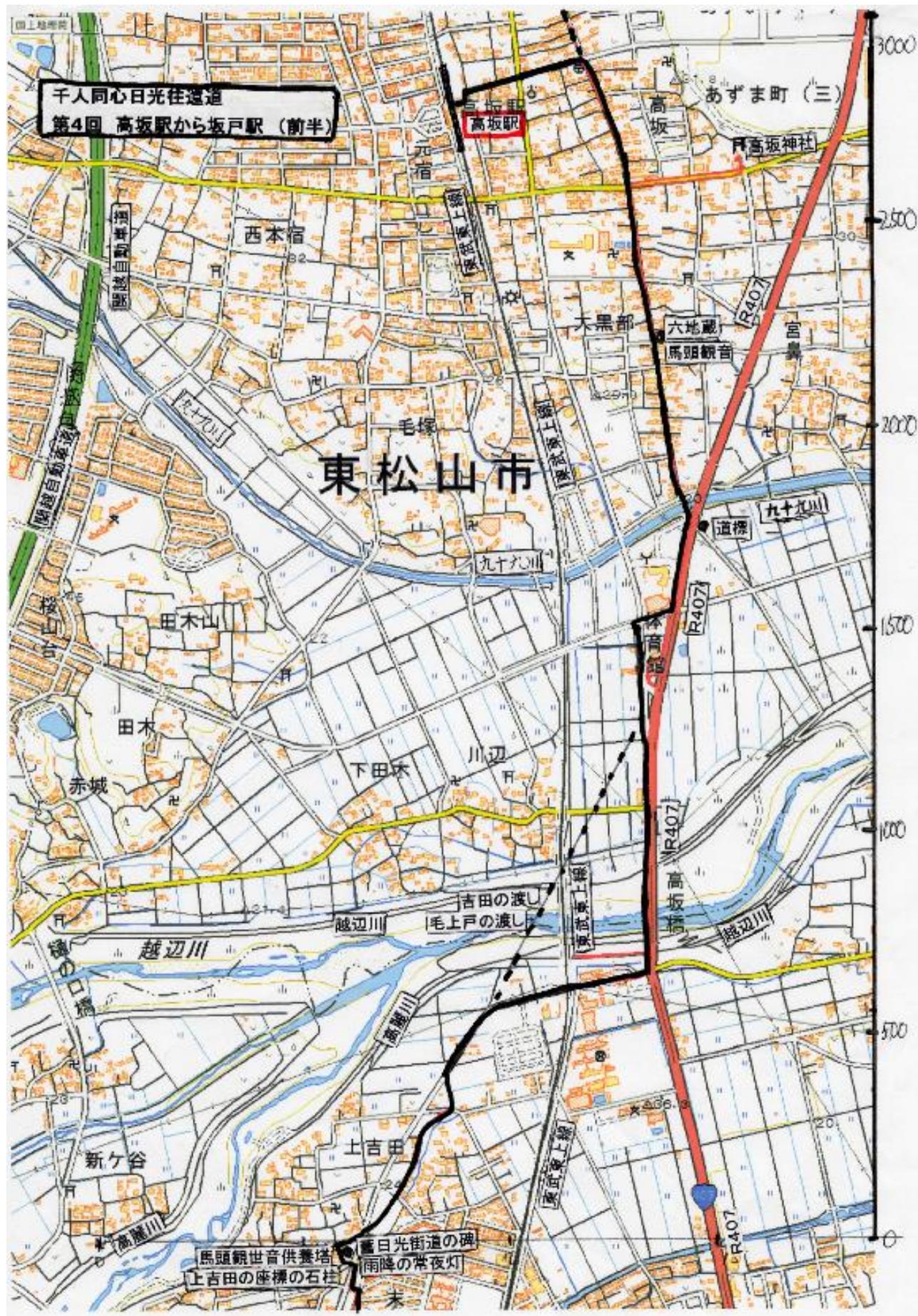
GPSデータ

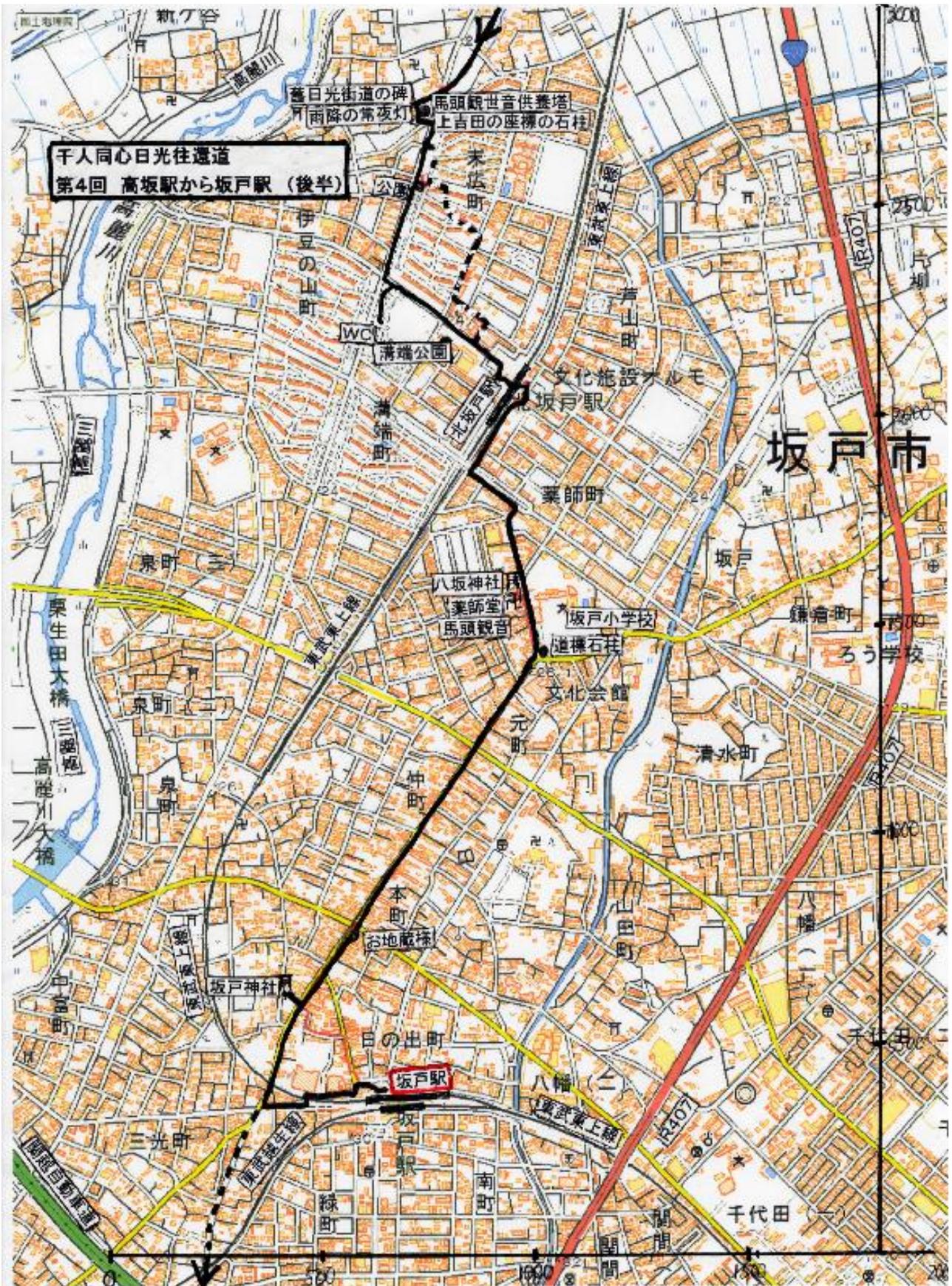
歩行距離：7.6km。 累計歩行距離 36.3km。

全体所要時間：2時間41分。移動時間：2時間04分。停止時間：37分。

移動平均速度：3.7km/h。全体平均速度：2.81km/h。

高坂駅で集合時に全員検温をし、体調を確認。東口を10時12分に出発。(ウォークガイドには西へ330m程と記したが東への間違いでした) 高坂駅を出て東へ330m程進んだ右角に高坂郵便局がある。その交差点を右折し街道を進み、300m強の県道212号線との交差点(西へ行く道は、岩殿観音へ3.7km) 辺りが高坂宿の中心である。





千人同心日光往還道
第4回 高坂駅から坂戸駅 (後半)

坂戸市



この交差点を左折し、**280m**程の左に「高坂神社」がある。(今回は寄らない)

街道を**350m**程進んだ左側に「六地藏」と「馬頭観音」が祀られている。(10:31)



街道を進み九十九川を渡ると国道407号に合流。



国道の反対側は三叉路になり、その角に「道標」がある。(10:42) 左へ入る道は、板橋から川越へ通じる川越街道の延長の児玉道で、道標には「左 江戸道 右八王子道」とあるとのことだが、国道を横断することが出来ず、写真も遠くからしか撮れず、彫ってある文字も確認出来なかった。

ここから越辺川を渡った所まで街道は消失してしまっている。



国道を進み、200m程の右側に体育館がある信号交差点を右折し（直進は先で歩道が無くなる為）、70m程の交差点を渡って左折する。道は300m程先で国道の合流するのでそのまま国道の右側を進む。



越辺川の手前の堤防で休憩。（10：57～11：03）



越辺川の渡しを「吉田の渡し、毛上戸の渡し」と言った。



越辺川を高坂橋で渡り、すぐの高坂橋交差点を渡って右折し、東武東上線のガードを潜って進む。



左カーブして200m程で車道から分かれ左の小道へ入る。これが旧街道。入って80m程で交差するので、斜め右の細い道を進む。左・右と曲がりながら進み、380m程で車道に合流。



信号は無いが横断し、斜め右の小道に入り、60m程の十字路を左折する。左側に石仏群「舊日光街道の碑」、「雨降の常夜灯」、「馬頭観世音供養塔」、「上吉田の座標の石柱」がある。(11:26)



舊日光街道の碑

上吉田の起源については明らかでないが正代氏文書に據れば承元四(一一一〇)年三月廿九日の記録に沙弥行連が小代有平に与えた譲状によしだむらの四至として東こさむのつゝみ南あとかは西大とうのふるみち北たむきのさかひを挙げてすでに集落が存在した事を示して居る 降って天正十(一五八二)年武田勝頼の敗死によりそこに家臣が此処に歸農し江戸中期にはすでに四十九戸を数える集落となった。又この街道は戦国時代小田原北条氏が鉢形厩橋忍諸城との連絡路として利用し江戸初期日光東照宮造営十五年後の慶安四(一六五一)年八王子千人同心がその火の番役を仰せつかり勤務の為五十人づゝ半年交代で日光へ往来した為日光街道と名付けられ八王子から始まって坂戸宿を通り当集落周辺を過ぎり松山吹上忍を経て例幣使街道に合流した

この街道に沿うむらの入口に雨降山の石燈籠と馬頭観世音供養塔が建てられた頃植えた吉田の松はその樹形が美しいことで道行く人々に永く親しまれて来た。

慶応二(一八六六)年米価暴騰に堪えかねて飯能暴動と云われる吾野谷等の山村民の蜂起による「打ちこわし」が日光街道を坂戸宿まで押し寄せたとの情報に急遽むら中の家々で焚出しを行いこれを両問屋に持ち寄り酒と握り飯を振る舞ったため一揆は乱暴することなく過ぎたと言ひ伝えて居る 明治以降近衛第一第十四師団の秋季演習の都度在郷軍人青年団員が湯茶の接待に当たり又行軍の靴音に胸踊らせたのもこの吉田の松附近であった

昭和農業恐慌の救農事業として道路改修が行われ昭和四十年代北坂戸団地が日本住宅公団の手によって達成され街道は全くその姿を失うに至った 今むらの人々相謀り協力して「吉田の松」周辺の荒廃を修復し且舊日光街道の碑を建て後世に伝えると共に昔を偲ぶよすがとする次第である。

昭和五十三年(一九八〇)立春

松本正治 撰

砂川芳仙 書



舊日光街道の碑

雨降の常夜灯



雨降の常夜灯

馬頭観世音供養塔

上吉田の座標

上吉田の座標

左側面 北緯 三五度五八分二九秒 東経 一三九度二三分五二秒

右側面 海拔 二二・七米

とある。





旧街道はこの辺りから今の北坂戸駅の先までほぼ一直線に南下し通っていたらしいが、駅や団地が出来たため消滅している。団地の中をジグザグに旧街道に近い道を進むことを考えていたが、正午も近いし腹もへってきたので、車道を進んで溝端公園へ向かう。溝端公園にはトイレ・ベンチがあるので昼食休憩をとる。(11:40~12:00)



昼食後、駅に向かって進み、高架橋を上り、北坂戸駅改札口前を通り東口に出る。線路に沿って南下、跨線橋を潜り左折する。



跨線橋が切れる手前で右折し直ぐの変則四差路を左斜めに行く。四差路から200m程の右側に「薬師堂」と「八坂神社」、その境内に「馬頭観音」がある。(12:18)



坂戸の薬師さま

この薬師さまは、いまから二百年まえの安永年間にはじめられた中武蔵七十二番薬師巡拝の拾番札所で、お堂の扁額に

たのむぞよ ういの山坂 とく越して
みちびきたまえよ るりのみそのへ

の御詠歌も掲げられている。

この薬師堂のご本尊は、木彫りの立像で高さが四十五センチメートル、頭部を胴にはめこむ仕組みになっているが、その首の裏に「武州入西（にっさい）郡勝呂郷之内塚越（すごろのごうのうちつかごし）村、小河新右衛門尉、法名善了旦那也、天文廿四年（一五五五）十月五日」と墨書銘があり、光背にも「享保十七年（一七三二）壬子（みずのえね）歳十一月廿七日常福寺快応代再興之者也」と記されている。

新編武蔵風土記稿によれば、この薬師は、坂戸判官則明の守り本尊で康平年間（九百年まえ）この地に安置されたと伝えられ、常福寺もまた白髭山と号して文明十二年（一四八〇）建立とあるがその所在は今日定かではない。 坂戸市教育委員会

八坂神社



馬頭観世音



街道を進み、坂戸小学校前の三叉路の左の校門の脇に「道標石柱」とその「解説板」がある。





道しるべ

道しるべは、街道の三叉路や十字路の角に建てられ、他国から来た旅人が道に迷わないよう表示してあります。ここに残る道しるべは、坂戸宿四丁目の皆さんが、旅人の安全を願って建てたもので、この道筋が、江戸時代の承応元年（一六五二）に日光脇往還に定められ、往来する旅人が増えたためと考えられます。

道しるべは、坂戸市内に現存する最古のもので、角柱四面に「右よしみみち、左日光道 松山道、願主講中 坂戸町中四丁目、宝暦十庚辰六月吉日」と刻まれています。

「右よしみ道」とあるのは、右の道をたどると坂東三十三観音のうち十一番目の札所「安楽寺吉見観音」があり、札所めぐりの盛んであった当時としては、観音霊場めぐりに往来する人たちが多く、坂戸宿を出外れた三叉路で、右か左か思案する姿が見られたためと想像できます。

また、「左日光道」とあるのは、当時、八王子千人同心が日光東照宮の火の番（警護）にあたるため、八王子から日光への往来に使った道筋にあたったため、今日まで多くの人々の往来を見守ってきました。

平成二十五年二月

坂戸市教育委員会



三叉路を右に行き、750m程進んだ日ノ出町交差点辺りが坂戸宿の中心であったようだ。その左角に「お地蔵様」が祀られている。



200m程進んだ右側に「坂戸神社」がある。坂戸神社は、清寧天皇の他、九神が祀られている。



200m程で東武東上線の踏切を渡る。踏切から50m程で左折し、道なりに（途中、踏切を渡る）280m程進むと坂戸駅北口に着く。坂戸駅着12時53分。13時07分発池袋行急行に乗る。

今日はここまで。